資料編、ついに現代へ接続。

第5套



第4章 第一次大戦後の裾野

第5章 十五年戦争と裾野の ひとびと

第6章 占領のなかの民主化

第7章 戦後復興から高度経 済成長へ

※第1~3章は、第4巻に収録

価格:6,000円

販売・お問い合わせ

生涯学習センター(市生涯学習課)

住所:深良435番地 電話: 055-992-3800

> ダイヤル式公衆電話 裾野町に登場!

-円玉が

四九七〇

昔の人々の生活を教えてくれます。

市史第5巻 資料編

在の礎を築いてきた歴史です。

現代へ接続します。

第1巻「考古」から始まった資料編が、「古 代・中世」「近世」「近現代I」と続き、ついに

「近現代Ⅱ」の内容は、第1次世界大戦期か

ら始まり、戦争の時代を経て、戦後の占領から

高度経済成長期に至ります。その中身は、戦時

中の苦しい生活、町村合併での紛糾の様子、エ

場誘致、東富士演習場と地域の歩みなど、いず

れも先人たちが多くの苦難を克服しながら現

まさに"温故知新"。あしたのための1冊。

綴る力は

かうし

る力は

楽しい郷土史だより 第5号

裾野市史の編さん事業は、昭和62年から始まりました。平成3年、「資料編 深良用水」から 発行が始まり、最終巻である「通史編Ⅱ」が発行されたのが平成13年のことです。このように、 長い年月と多くの方々のご協力により編さんされた裾野市史は、私たちに、裾野市の成り立ちや

最終巻の発行から16年たった今、改めて裾野市史を例にとり、私たちの郷土史を紹介します。

合併により、現在の裾野市域(大裾野町)が誕生。

近現代Ⅱ

平成 29 年 6 月 裾野市教育委員会生涯学習課

<児童文苑>

「児童文苑」は、大正 15 年 (1925) に御殿場の原里小学校の 富原先生を中心に刊行された文集 に始まり、翌年、学年別の活版刷 り月刊文集になりました。

昭和 17 年に紙の統制により廃 刊となりましたが、戦後「駿東文 苑」として復刊しています。

読み返してみると、当時の子ど もたちの感覚や、日常生活の様子 などを読み取ることができます。

昭和34年 裾野駅前の風景

福野市の基礎がつくられた時代

「生活の基礎が築かれた」

水道、バス、鉄道、信号機、高速道路の設置など、今の生活の基礎となる様々なものが急速に整備されたのは昭和30~50年頃です。特に、生活に直結する水道整備は重要視されていたようです。昭和30年6月15日に須山村は県知事に対して、簡易水道整備事業に関する補助金交付の嘆願書を提出しています。

嘆願書には「水道管は竹や土管を使っているため水は汚く不衛生である。洪水等があった場合はとても 飲用水として用いることができない状態である。恒久的な防疫、防災対策のため事業補助を認めてほしい」 という旨が記載されているなど、当時の窮状が見受けられます。

先人たちは、このような非常に厳しい状態から今の裾野市を築き上げていったのです。

「経済の発展と生活の変化」

昭和 30 年代には、工場や企業の誘致が活発に行われ、労働者の流入が起こり、この人口増加に伴い平松には裾野町初のショッピングセンターが開店するなど、市内は急激に近代化の道をたどります。この近代化の様子を見ることができる資料として、下の写真が残っています。







↑昭和 28 年

↑昭和 34 年

二つの写真を見比べてみると、6年の間に機械が導入されるなど、著しい変化が見て取れます。農業以外にも、さまざまな部分に変化が起こった時代でした。

「教育の変化・小学校いまむかし」

生活の基盤ができると、今度は次第に教育や家庭の在り方も変化してきます。昭和 27 年 深良村に保育所が開所すると、昭和 45 年には裾野町立乳幼児保育所も開所しました。このような状況を見ると、女性も仕事を持ち、働きながら子どもを育てることに対し関心が高まっていたことが推測されます。

小学校制度も整えられてきます。小学校制度については、前回の郷土史だよりで取り上げた第4巻にも 記載がありますので、ここでは市史第4巻・第5巻の内容を併せて振り返ってみます。

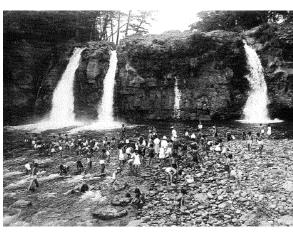
右ページにある写真は、嶽南小学校(嶽南学校)のものです。嶽南小学校は行餘舎から出発した学校で、現在の富岡第一小学校・富岡第二小学校・千福が丘小学校の前身です。各学校の変遷の様子も掲載しましたので、自分の出身校の歴史をたどってみてください。



↑嶽南学校の写真



↑嶽南学校名額



↑林間学校・五竜の滝での水泳風景 昭和 16 年



↑小学校の沿革(「郷土読本すその」より引用)

裾野市では、明治 9 年(1876)までに現在のすべての市立小学校が開校されました。市内就学率は明治 9 年の調査で全国平均の 38.3%を上回る 57.5%となり、教育への取り組みが早かったことがうかがえます。

誠求舎(佐野村)一明6 甘静舎(公文名村)

貫信舎(深良村)——明8 貫信舎分校(久根村)

一方、各村の就学率にはかなり差があったといわれています。原因はいくつか考えられますが、一つに学校からの距離が遠く通いにくいことがあったようです。この格差を是正しようと、富沢村・定輪寺村・大畑村は、荘園寺(御宿平山)に設置されていた行餘舎まで遠く、川が氾濫すると通えなくなることを理由に挙げ、明治8年(1875)に新たな小学校設置願を提出し、行餘舎分校が定輪寺に置かれました。教育に熱心な地域であったことを示すエピソードの一つではないでしょうか。

こうして学校の基礎部分が構築され、名称変更などが行われました。その後、人口増加に伴い増改築 や、狭い敷地の解消を目的に移転などが行われ、現在の学校へと姿を変えていきます。

次号の『楽しい郷土史だより』は、市史第6巻の中から深良用水、又は近世以降の歴史年表について特集する 予定です。どのような特集になるか、お楽しみに!

編集・発行 裾野市生涯学習課 文化・スポーツ室 / 深良 435 番地 / 元055-992-3800 当パンフレット『楽しい郷土史』は、市役所、生涯学習センター、鈴木図書館、市民文化センター、ヘルシー パーク裾野に配架しています。また、市ホームページでも公開しています。